

トップインタビュー2015

昨年、3層構造から2層構造にグループの構成を再編し、経営の速度を高める体制に組み替えたTSIホールディングス。不採算事業の整理も進め、徐々に効果が上がっている。

全体が見えやすく

――昨年はグループ再編や事業の整理も進んだ。

グループを3層から2層に変えて経営統合が完了。権限を委譲し、グループの初年度という思いでやってきました。秋に(セレクトショップ運営の)フィットとフリースインターナショナルを閉めることを決めました。フリースインターナショナルは「フリースマート」がいたので残すことも考えましたが、フリースマートをサンエー・ビーディーに移して会社は閉鎖することにしました。

特徴の明確な事業は好調です。

アルペーシユ、ゴルフウェアの2ブランド、「ステューシー」「マーガレットハウエル」「エヌ・ナ

三宅正彦氏

TSIホールディングス会長兼社長

チュラルビューティーベーシック」などがいい。アングローバルやジャックのように企業を買収して事業を広げているグループ企業もあります。新しく飲食事業の会社(ディー・エイ・ビー・ペイストリー)も始めました。社長会でも率直な意見が出て、(全体が)見えやすくなりました。開発など事業

会社の権限を広げ、ホールディングスの役割はグループの調整と大型開発、ディベロップなど大手企業との取り組みなどにまよめしました。新しいTSIグループの初年度を乗り切ったというのが実感です。グループ全体では既存店舗ベースで前年実績を超えています。

所得相応に洋服買う

――アパレル市況が厳しくなっている。

消費増税の影響が出ています。選挙で自民党が勝っても直後に株

価が落ちたり、円が上がったり、非常に予測しにくい世の中になっています。国際情勢も日本経済もばつとせず、消費者は感覚的に、分らない時代の中で消費を抑えざるを得ないのではないのでしょうか。ただ、洋服は厳しいとは思いますが、買ってはいると思います。若年層の洋服離れが言われるが、それ相応には買っている。マーケットの中心は以前は20代前半だったが、今では30、40代でしょう。すると所得相応に洋服を買っているというところで、本物の消費にな

明確なMDで本物を提案



ってきたのではないか。逆にいえば本物を提案しないといってきたくなくなるのではないか。MDがはっきりしたところが勝っています。「ビバユ」「ザエルダンス」などをやめたのも当たり前前で、明確なMDを徹底してやっていくべきではないでしょうか。

いい話あればM&Aも

――今年の重点は、

今のやり方を継承し、積極的に

グループ再編効果が徐々に

ビジネスを進めていきます。M&A(企業の合併・買収)案件もいい話があれば受けていきます。財政的な余裕もありますし、改めて海外ビジネスを含めて中期3カ年計画を組み直そうという話をしていきます。東京スタイルとサンエー・インターナショナルの合併は3年かけて一応終わって、次の段階にきたのではないかと。ホールディングスとしての役割、ビジョン、ホールディングスと各事業会社の分担のあり方も明確に打ち出していかなければならないと思っています。

新事業としては昨年作った新会社で「ドミニクアンセルベーカーリー」(ペイストリーショップ)を始めます。飲食事業のノウハウを蓄積していきます。

生産については東京スタイルの米沢工場が黒字化と独立採算を目指してやってきましたが、ここに来てそれが実ってきました。あと宮崎工場、中国の工場もきちっと運営していきます。生産拠点はかなりの国内に戻っていますが、さらに増えると思います。中国生産はそう減らないとは思いますが、来年あたりから脱中国の流れがはっきりすると思います。